

ご挨拶

富士通フロンテック・パーパスに基づき事業を推進し、SDGsの達成に貢献していきます。

富士通フロンテック・パーパス

当社は、1940年に金属洋食器などを製造する「株式会社金岩工作所」として設立以来、高度な技術・ものづくりをベースとした製品・サービスで金融・流通・産業・公共などのさまざまな分野でグローバルにお客様のビジネスの発展を支え続けています。

世界中を混乱に陥れた新型コロナウイルスは収束し、国際的な人々の往来が戻ってきましたが、歴史的インフレは収まる気配がなく、世界経済の先行きが不安定な状態が続いています。

このように不確実性が高く将来予測が困難なVUCA (Volatility Uncertainty, Complexity, Ambiguity) の時代において、企業としての存在意義を問われる中、当社は、富士通グループの一員としてFujitsu Wayを遵守するとともに、富士通フロンテック・パーパス「人と企業、人と社会の新たなつながりで明日を創る」の下で事業活動を進めています。

お客様のフロント領域（人と企業の接点）において、長年大切にしてきたハードウェア・ソフトウェア・サービスの技術力とクオリティ、そして業務・業種ノウハウに基づいた現場力が当社の「DNA（不変の強み、価値）」であり、これをベースに私たちは「お客様最前線のDX企業」を目指しています。人々が私たちの提供する「もの・コト」に触れることで、人と企業・人と社会の新たな繋がりが生まれ、リアルとデジタルが繋がり、これまではないサービスを楽しむ世界に変えていくことに「挑戦」し、その結果、すべてのステークホルダーの皆様が期待以上の「価値を提供」し続けます。そして、国際社会の共通目標であるSDGs（持続可能な開発目標）達成に向けた取り組みを推進し持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

「第11期環境行動計画」を通じた環境問題への取り組み

当社グループでは、エネルギーの使用や廃棄物の排出などの負の側面とともに正の側面も評価し、環境影響が著しいと判断したものを重点項目として特定し、その解決策として「富士通フロンテックグループ環境行動計画」を策定・実践することで、グローバルな環境問題の解決に努めています。

「第11期環境行動計画」（2023～2025年度）では「気候変動」「資源循環」および「SDGs」の3つに取り組んでいきます。

「気候変動」においては、事業活動におけるGHG排出量を2020年度比で30%以上削減するとともに電力における再生可能エネルギー利用率を37.2%へ拡大。加えて、製品の使用時電力によるCO₂排出量を従来機と同等以下に抑制していきます。

「資源循環」においては、サーキュラーエコノミー型ビジネスモデルに資する製品・サービスを開発するとともに、プラスチックごみ発生量を削減します。

「SDGs」においては、SDGs貢献ソリューションの開発・提供、および良き企業市民としての活動を指標に掲げ、これらを達成すべく活動を展開していきます。

また「Fujitsu Climate and Energy Vision」の目標である「2030年度に事業活動によるGHG排出量を実質ゼロ」の達成に向けては、2021年度から推進している再生可能エネルギーの適用拡大をさらに加速させていきます。

他方、国内では2023年4月から非化石エネルギーを対象に追加した「改正省エネ法」や「労安法 新たな化学物質規制」が施行、海外ではPFAS（有機フッ素化合物）に関する規制が一部の地域で制定されるなど、環境関連法規制が強化されつつあります。このような現状を踏まえ、従業員への意識啓発をはじめとし、引き続き環境コンプライアンスの徹底に努めてまいります。



代表取締役社長 渡部 広史